

会 議 録

会 議 名	令和7年度第2回東松山市幼児教育振興懇談会			
開 催 日 時	令和7年8月1日（金）	開 会	午後3時30分	
		閉 会	午後4時40分	
開 催 場 所	東松山市総合会館 多目的ホール			
会 議 次 第	1 開会 2 あいさつ 3 議題 （1）第1回幼保小三者連絡会の報告 （2）その他 4 閉会			
公開・非公開の別	公開	傍 聴 者 数	0人	
非公開の理由 （非公開の場合）				
参加者出欠状況	巢立 佳宏	出席	中村 昭司	出席
	小佐野 真紀	出席	竹内 千鶴子	出席
	峯 岩男	出席	西條 宏実	欠席
	二口 法子	欠席	狐塚 汐里	出席
	内田 宏美	出席		
事 務 局	こども家庭部長 神庭 法子		こども家庭部次長 加藤 勝子	
	保育課 課長 阿部 康裕		保育課 副課長 福田 潤	
	学校教育課 副主幹 岩崎 慶一			

	顛 末
1 開 会	事務局
2 あいさつ	東松山市こども家庭部保育課長 阿部 康裕
	座長については、第1回東松山市幼児教育振興懇談会において、 峯岩男氏を選任済 会議録署名人に中村昭司氏、狐塚汐里氏を指名
3 議 題	座 長 議題（1）第1回幼保小三者連絡会の報告について 事務局から説明をお願いします。 事務局 （説明） 座 長 このことについて、御参加されたメンバーの皆様から、 気づいた点、今後に生かせそうな点など、どんなことでも結構ですので、御意見をいただければと思います。 狐塚氏 事前に保育の意図や進め方を教えていただいたので、プロセスに沿った共通理解のもとで、研究協議が進められました。懇談会メンバー同士でのディスカッションがあったことによって、より深い学びになったと同時に、懇談会メンバーが座長を務めるので、今後も共通の目的に向かって話し合いを進めていくことが大切と思いました。また、目的がしっかりとあったので、話し合いの中で目的からずれそうな意見があったら修正できたことも良かったです。そして、幼稚園・小学校両方の経験をお持ちの先生がいらして、幼小の違いを教えていただき話ができたので、大変勉強になりました。 小佐野氏 一人一人の先生の発言の意図を考えながら話を聞くことができ、とても勉強になりました。話し合いの途中、小学校就学に向けて、幼稚園ではこんなことをしておいてほしいといった話が出た際に、そういうことではないとアドバイスができました。 内田氏 接続期、幼児教育で大切な事を聞かせていただき、小学校で学ぶこと、幼児教育で学ぶことの違いを改めて確認できました。小学校に入学すると、どうしても幼い子扱いとなり、幼稚園・保育園でできていたことができない、

	やる気が出ない子がいるということをお聞きしたので、幼稚園・保育園と小学校を行き来する機会があれば、もっと接続がスムーズになると感じました。 座 長 協議記録 3 ページから幾つかお話しします。1 の最後に「この考え方の違いが、子どもたちの混乱を生じさせている、と考えられる。」とあります。遊び中心の幼児教育と教科主義の小学校教育の違いのことですが、これが子どもたちにとってハンディキャップとなり、小1 プロブレムにも繋がる一つの要因となっているのではないかと思います。21 ページの 25、「“小1 プロブレム”と言われている部分はどんなところなのか」という小学校の先生から意見が出ています。幼児教育と小学校教育との間の中で、プロブレムを起こしてしまう子がいるということを理解することが、今回の研修の意義とも言えます。3 ページの 8、子どもの育ちがデコボコで、小学校ではいつ頃から落ち着いてくるのかとの質問に対し、小学校の先生がスモールステップ（離席しない、忘れ物をしない）をクリアしていくことで差が無くなってきていると考える一方、家庭での育て方（価値観）が大きく影響するため、不安を感じていると回答しています。確かにそのとおりであり、例えば生活の中で物を忘れないようにするために、親が意識して一声かける子とかけない子では、当然に違いが出てきます。それから、7 ページの 10、幼・保と小学校のギャップを埋めるのにどのあたりにポイントを当てれば良いかとの質問に、小学校の先生は「教えてくれる人」という位置づけとの捉え方で良いでしょうか。これからの教育は、「教える人」から「学び合い」に、子どもが主体となるように変えるべきであると思います。本日の研修会の資料映像に、虫の好きな「S 君」のエピソードがありましたが、先生が生活科の授業等を通して彼の「特異な才能」に気づいてあげられた事例です。文部科学省によると、35 人のクラスに特異な才能を持つ子が 0.8 人、100 人に換算すると 2.1 人いるとのこと。それを見過ご
--	---

	してしまうと、その子も浮かばれず、不登校に繋がることもあります。今回の事例は、S君がいたことによって、協同しての学びが生まれたものです。 竹内氏 生活科の授業の中でということでしたが、中々できないすごいことだと思います。 座 長 このような研修の機会はやはり意義があって、先ほどのエピソードを見て意識が変わる、なるほどと納得する小学校の先生方もいらっしゃると思います。恐らく、今後の学校教育は、「教え」から「学び」へ大きく舵を切ることとなると考えます。授業の形態も変わっていかざるを得ないと思いますが、時間がかかるでしょう。このような協議記録を見ていくと、そういったことも見えてきますし、幼・保・小三者連絡会の意義が見えてきます。また、4ページの3、5、7、11を見ると、小学校も変わってきていると感じています。子どもの個別最適な能力をどうやって取り上げていくかを小学校の先生方も気づき始めていると思います。 中村氏 スムーズな就学が図れるために、小学校に行ってスムーズに生活が送れるように、幼児教育と小学校教育の違いを理解するというテーマですが、理解はしたかと思いますが、小学校に入学して45分間机に座っているのは大変です。子どもたちはとても頑張っているという印象を受けました。授業を聴こうとしている姿勢も見えました。これだけ意見があるということは、幼稚園・保育園の先生方は、理解したからどうするのかを現場に戻って考えると思いますので、それをまとめることも必要かと考えます。また、小学校の先生方が少なかったのが残念でした。3学期の幼稚園・保育園の公開授業では、小学校の先生方に子どもたちの様子を見ていただき、理解していただき、小学校でどうするかを考えていただく、一学期に小学校、三学期に幼稚園・保育園を参観する、この機会は良い機会だと思います。やはり、小学校の先生方にもっと参加していただきたい。夏休みに研修会である程度のヒントを与えてもらって、子どもたちがスム
--	--

	ーズに小学校で生活していくためにどうしたらいいか、という考えが出てくると思います。これだけ意見・感想が出てくるということは、幼稚園・保育園の先生方も考えていると思います。ですから、この場が大切であると、つくづく感じました。 座 長 9 ページの 8 について、先生の厳しい面もあり、やはり壁もあるのかな、との感想もあります。 中村氏 小学校の担任は、学年の固定は難しいと思いますが、幼稚園・保育園の様子を見ていただいて、遊びの中でやっているのだな、ということを理解していただき、小学校でどうしようかと考える機会になってくれればと思いますので、小学校の先生方の出席率が上がればと思います。 小佐野氏 国語の授業では、音読をしっかりとしていたとの印象を受けましたが、担任の先生に授業の感想をお伺いしたところ、子どもたちはいつもより緊張していたとのことでした。普段でしたらもっと早い時間帯で飽きてしまう子が多いとのこと、一クラスに集中力の続かない子が複数人いたり、基本的な理解度なら満点が取れる内容のテストで、ミスをする子が多いなど、今までにない状況で授業をしているとのことでした。やはり架け橋の部分の一つの要素で、支援が必要な子どもたちに対して、年中・年長時の保護者へのアプローチの際は、小学校に進級していった先の子どもたちが、より良い環境で学ぶことが楽しいと思えるようにすることに視点を当てて考えてほしいと考えています。また、メンタルが弱い子が増えてきているとの話がありました。そういったメンタル面のところも、架け橋期で大切なことかと思います。失敗することを過度に恐れる子どもが多い印象がありますが、保護者もわが子が間違えること、失敗することに過敏となり、そうならないように手を差し伸べてしまうので、それよりも失敗しても大丈夫、何とかなんと考えられる子どものほうが、小学校に進級しても嫌になったり挫けたりせずに上手くいくのかな、と感じています。それから、5 歳児健診が始まり、年中のタイミングで支援
--	--

	が必要と思われる子どもの情報が、小学校に共有されていくのか、普段の園生活で気になる点がある子も、健診で問題なしとの結果が出ると、その後のアプローチがしづらくなってしまうという話もあり、今年度から始まったばかりですが、情報の運用のところは考えたいと思います。
竹内氏	心配な子の場合は、事前に連絡したほうが良いのでしょうか。短い時間では、課題のある子を見つけられない可能性があります。
神庭部長	年に一度の専門医との面談では見過ごしてしまうような子でも、幼稚園・保育園での生活を見ている上では、何らかの特性を持っている子どもがいるということですね。
内田氏	健康推進課からも、気になる子がいたらお声掛けくださいと連絡を受けています。保育園でも気になる子がいたら、連絡すれば気にして診てくださるとのことですので、できる範囲で情報提供しています。
座 長	11ページの12、苦手なことも頑張る必要があると伝えられている、このような接し方で良いのかと疑問があります。逃げ出してしまう、大泣きしてしまうこととの因果関係を明確にするべきと考えます。
巢立氏	先生方の意見は、保護者の意向もある中でどこまで厳しくするのか、また最近の子ども達はメンタルが弱いということが現場から多く出ています。果たしてどこまでを求めるのか、先生方が求めるレベルに今の子どもたちがどこまで付いていけるのかを考えると、時代も変わっているので、指導の方法も変えていかなければならないですが、先生方の気持ちも理解できるので、どこまでを求めるべきなのかの見極めがとても難しいと思います。
座 長	授業に対して理解が不十分なために、逃げ出してしまう気持ちになるケースも無きにしもあらずなので、世の中全体的にそのような子どもたちが増えてきていることを踏まえ、子どもたちに向き合う必要があります。
竹内氏	確かに、体操の授業で、卒園児が泣きそうになっていましたが、以前なら泣いてしまっていたのに、泣かずに頑張っているな、本人なりに少しずつ強くなっているのかな、と

	思いながら見ていました。まだ学校に慣れていないので、不安になるのだと思います。研究協議の中では、勉強は学校に進級してから大丈夫と、小学校の先生からお話をいただきましたが、12ページの11、童謡を歌えない、昔話を知らない子が多いとのことに驚きました。また、水道水が飲めることを知らない子どもが増えているこのことで、そういったこともギャップになって、普段の生活の中でちょっとしたことが子どもたちにとってハードルになっていくのかと感じました。園では童謡を歌うように指導しています。最近はやったりとした曲調よりも、テンポの速く音程の抑揚がない曲が好まれるので、保育を見直すきっかけになりました。
座 長	水道水が飲めないケースは、家庭でも水道水を飲ませていないです。そういった家庭での価値観の違いが増えてきており、生活面でも違いがあります。その点を先生方がどう理解して認めながら育てていくかを考えなければならぬ、大変な時代になってきていると感じています。童謡や昔話ですが、音楽の時間で童謡は取り上げていますでしょうか。
岩崎副主幹	音楽の教科書に文部省唱歌は載っていますので、私も低学年を担当した際に曲を知らない児童もいましたが、分からなくても指導していきますので、それによって大きく躓くことな無いかと思います。
座 長	家庭でも、昔話や童謡の曲を流して家族で楽しむ、といったことは、現代ではゼロに近いですね。
竹内氏	ゆったりとして優しい雰囲気の良いとは思いますが。
座 長	学校の音楽の授業でも内容が変わってきていますね。テレビで流れるような曲が増えてきています。
狐塚氏	ある小学校でのリコーダーの練習曲が、某商業施設の入店時のチャイム音で驚きましたが、子どもたちが興味・関心を持って知っている曲を演奏するという意図は理解しますが、そのような曲ばかりではいかがかなとも思います。
座 長	13ページの5、6ですが、人数分の用意がない楽器を譲り合って順番に仲良く使うことで人間関係が育つ、これも

